立正大学博物館 館報

万言だより

MA GECHI NEWS

第31号 令和2年(2020)年10月

「立正大学の考古学」の原点

館長 時枝 務

「立正大学の考古学」は昭和初期に誕生した。

それは、文学部史学科の非常勤講師として、2人の考古学者が招聘されたことから始まる。

1人は原田淑人(はらだよしと、明治18年生れ)で、昭和初期には東京帝国大学助教授を勤め、おもに中国考古学を研究していた。とくに、漢人の服飾を専門とし、文献と考古資料を対比しつつ研究を進めるところに特色があった。原田は、短期間で立正大学を離れ、昭和13(1938)年には東京帝国大学教授に昇進している。その後、日本考古学会会長などを務め、文化審議会で国宝・重要文化財の指定を審議する立場になった。そのような日本を代表する著名な考古学者が、立正大学で考古学を講じたのは、実は東京帝国大学には当時考古学の講座はなく、もっぱら東洋史を講じていた。そんな原田にとって、立正大学で考古学を講じることは、本務校で充たすことのできない思いを達成できる楽しさがあったに違いない。

もう1人は石田茂作(いしだもさく、明治27年生れ)で、昭和初期には東京帝室博物館に勤務し、おもに仏教考古学を研究していた。奈良県の若草伽藍を発掘調査して、法隆寺の再建を証明したことはあまりにも有名であるが、そのほかにも経塚遺物や正倉院宝物など研究範囲は広かった。石田は、仏教考古学を提唱し、その体系化を目指した。仏教考古学という石田の研究課題もあって、石田は仏教系大学である立正大学を愛し、研究者の育成に励んだ。しかし、立正大学における研究者の育成は思うように進まず、「教えても皆僧侶になってしまう」と歎いている。そうして、石田の講義は、戦争で中断した一時期を除き、昭和32年に奈良国立博物館長に就任したため辞退するまで、ほぼ30年間続いたのである。石田は、厳格な人格であったが、面倒見もよく、弟子には久保常晴・関根真隆ら立正大学卒業生も加わった。

こうして、「立正大学の考古学」は出発したが、なんといっても石田の影響が大きかった。石田が仏教考古学の創始者であったことも、立正大学にとってはまさに好機で、「立正大学の考古学」は仏教考古学を主軸にすえることになった。

立正の考古学と博物館

立正大学博物館の淵源は、立正大学における考古学研究にあります。昭和５（1930）年の考古学談話会の発足、考古学研究会への改称、昭和７（1932）年の立正大学考古学会へとつながります。

この間、考古学研究用の遺物収集、史学研究室への陳列がなされましたが、久保常晴先生は、考古遺物を「標本室」に陳列するよう尽力されました。その後発掘調査も指導され、考古遺物の展覧会も開催しました。立正大学における博物館活動の端緒といえます。戦中・戦後の混乱期に多くの資料が散逸しましたが、戦後、久保先生、丸子亘先生により研究が再開されました。

立正大学博物館は平成14（2002）年、大学創立130周年を記念して設立されました。それまで立正大学には品川キャンパスに考古学資料室が、熊谷キャンパスには考古学陳列室があり、資料が展示・収蔵されていました。坂詰秀一初代館長の主導により、これら二つの施設・収蔵資料を合体して博物館が歩みだしました。考古資料が中心ですが、立正大学には考古学以外の資（史）料が収蔵され、日常的に教育と研究に活用されていることから、「立正大学の知的財産を内外に周知活用していただくためにも、全学的な見地での博物館とすべきである」との理念の下、総合博物館となりました。平成16（2004）年３月には埼玉県から「博物館相当施設」として認可されています。

平成18（2006）年、坂詰先生からバトンタッチした池上悟二代目館長は、平成28年度まで10年間は館長として、平成30年度までは博物館担当副学長として博物館事業を指導し、調査・研究を推し進めました。平成31年までに企画展、特別展ともに10回を開催。寄贈資料や所蔵資料を調査・研究し『館蔵資料「基礎文献」叢刊』は第３輯から第８輯まで６冊をまとめました。

立正大学博物館は、考古学研究を基礎に、立正大学におけるステータスシンボルとして発展してきました。新型コロナウイルス対策により、「新しい生活様式」求められる時代にあって、博物館も新たな表現を模索しています。

第15回特別展「立正の考古学」

本館の二代目館長を務められた池上悟先生が今年度退職されます。それを記念して、立正大学における考古学研究の歴史を紹介します。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度休館の措置をとっていますが、当初予定していました特別展をオンラインで12月下旬より開催する運びとなりました。

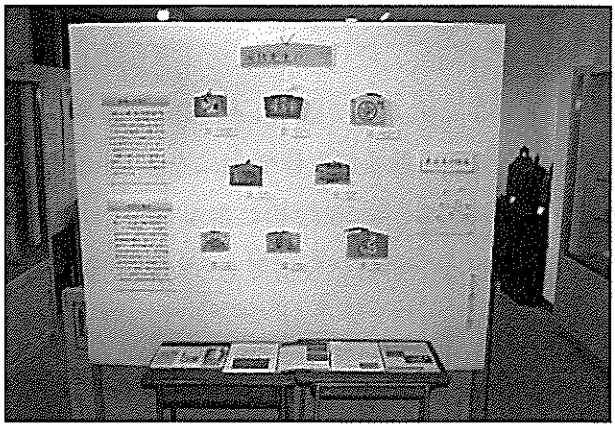
ぜひ、ホームページにアクセスしてください。

実習展示　　坂詰先生の絵馬

当館には初代館長・坂詰秀一先生が寄贈された絵馬が155点所蔵されています。坂詰先生が大学院の研修旅行、日本考古学協会地方大会への出張などで訪れた神社や寺院で記念に買い求めたもので、平成23年に寄贈していただきました。

絵馬は、全国各地に及びます。

今回の展示は、博物館館務実習生による実習の成果です。昨年度より実習の一環として絵馬の整理を行い、今年度は16点の絵馬を展示することができました。



坂詰先生の絵馬展

館務実習

今年度も博物館学芸員資格取得のための館務実習生を受け入れました。実習生は、文学部史学科２名、哲学科２名、仏教学部仏教学科１名の計５名でした。

実習期間：９月９日（水）～10日（木）
９月15日（火）～17日（木）（延べ５日間）

令和２年度実習生

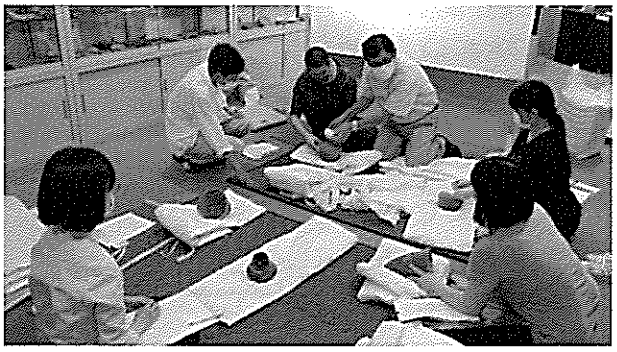
○1日目　9月9日（水）　学芸員
・実習ガイダンス
・立正大学博物館の概要・資料整理の実習

○2日目　9月10日（木）　館長・学芸員
・博物館学芸員の職務と心構えについての講義
・資料整理の実習　　・野外実習　文殊寺見学

○3日目　9月15日（火）　井上尚明氏
・文化史と博物館展示についての講義
・資料の取り扱い及び梱包についての実習

○4日目　9月16日（水）　井上尚明氏
・展示解説・キャプション・リーフレット作成実習

○5日目　9月17日（木）　学芸員
・資料展示実習　絵馬の展示


資料の梱包実習

展示実習

運営委員会

立正大学博物館運営委員

第１号委員　時枝　　務（博物館長）
第２号委員　足立　佳代（学芸員）
第３号委員○板野　晴子（社会福祉学部長）
第３号委員　鈴木　厚志（地球環境科学部長）
第４号委員○川眞田嘉壽子（法制研究所長）
第４号委員○村尾　泰弘（社会福祉研究所長）
第５号委員○久保　真紀子（博物館関係学識経験者）
第６号委員　石山　秀和（文化史関係学識経験者）
第７号委員○島津　　弘（自然史関係学識経験者）
＊敬称略（○は新任委員）

令和元年度第１回博物館運営委員会
日時：７月７日～７月30日　書面審議

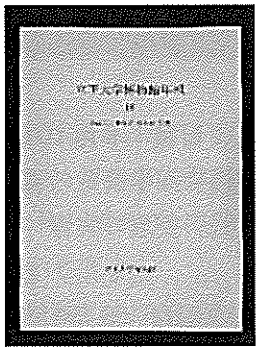
Ⅰ．報告事項
1. 令和２年度博物館運営委員について
2. 平成31・令和元年度事業報告・決算報告
3. その他

Ⅱ．審議事項
1. 令和２年度事業計画について
2. 令和２年度予算について
3. その他

＊審議事項は全て可決されたほか、委員からはさまざまな意見が寄せられました。

刊行物

●『立正大学博物館年報18』



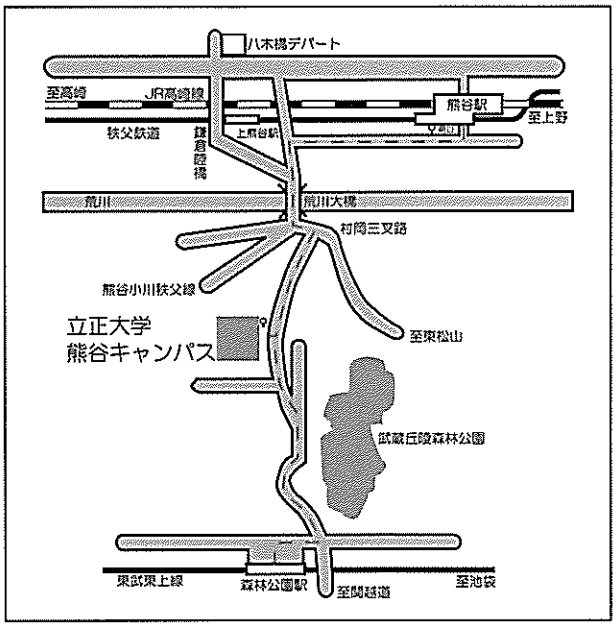
令和２年６月31日に『立正大学博物館年報18』を刊行しました。
Ｂ５判　28頁　モノクロ

資料活用

下記の刊行物に所蔵資料の写真が掲載されます。
①港区『港区史』掲載
提供資料：人物埴輪頭部・伝芝丸山古墳
刊行日：令和２年10月（予定）

利用案内

所 在 地：〒360-0194　埼玉県熊谷市万吉1700
立正大学熊谷キャンパス内
TEL　048 － 536 － 6150
FAX　048 － 536 － 6170
※詳細につきましては、博物館ホームページをご覧下さい。
交通機関：
①JR 高崎線、北陸新幹線、秩父鉄道「熊谷駅」下車。南口より立正大学行バス（国際十王交通）で約10分。
②東武東上線「森林公園駅」下車。北口より立正大学行バス（国際十王交通）で約12分。
お問い合わせ：博物館または熊谷総務部総務課（048-536-6010）にご連絡下さい。
※今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、休館措置としています。ご理解のほどお願い申し上げます。



あとがき

今年は新型コロナウイルス感染症の蔓延により、授業は全てオンラインとなり、博物館も休館となりました。

休館中も資料整理や館内整備など行いつつ、夏休み期間中には博物館館務実習を実施することができました。実習生は５名でしたがやはりキャンパスに学生がいるのは明るくていいものです。

疫病が退散しキャンパスがにぎやかになることを願ってやみません。

立正大学博物館館報　万吉だより　第31号
令和２(2020)年10月29日発行
編集・発行　立正大学博物館
〒360-0194　埼玉県熊谷市万吉1700
TEL　048－536－6150
FAX　048－536－6170
E-mail ： museum@ris.ac.jp
URL ： http://www.ris.ac.jp/museum/index

題字揮毫　田淵観斎（立正大学名誉教授）
（印刷：アサヒコミュニケーションズ）